

ちひろと初山 滋

— 永遠のコドモ —

協力：初山斗作、城田三茶、藤原浄峰、光村図書出版、至光社

後援：絵本学会、こどもの本 WAVE、(公社) 全国学校図書館協議会、(社) 日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会、(社) 日本図書館協会、杉並区教育委員会、中野区、西東京市教育委員会、練馬区、武蔵野市教育委員会



1 いわさきちひろ 野の草と本を持つ少女 1965年



2 初山滋 「蝶さん うつしますよ」 1933年頃

幼い日にうけたその感動が、その人の成長につれて
ふくよかにより美しく成長し、心の糧になっている。

いわさきちひろ

大正時代の日本の童画の萌芽期から活躍し、第二次世界大戦後の新たな子どもの本の動きのなかでも、後続の画家たちに多大な影響を与えた画家・初山滋。子ども時代に「コドモノクニ」の初山の絵に憧れたいわさきちひろは、戦後子どもの本の世界で活躍を始めてからも、初山を敬愛し続けました。初山滋の没後40年を機に開催する本展では、絵雑誌や絵本、アンデルセンの童話集、教科書など、共通する仕事も多かった初山とちひろの作品をともに展示します。時代を越えて輝き続ける、ふたりの画家の世界をご覧ください。



3 いわさきちひろ
カナリヤと青い帽子の子ども 1971年



4 初山滋 「なんなん菜の花」 1932年頃

童心の世界

私は絵と共に生き、絵の中に戯れて生きている。
締め切りの仕事に追われることはつらいけれども、
絵を描いている私の心は、
童心の世界を散歩しているのだ。

初山 滋

童心を失うことのなかったふたりの画家が、生涯のテーマとして描き続けた子どもたちの世界を紹介します。ちひろが子どものころに憧れた、初山滋の「コドモノクニ」の原画も展示します。

懐かしい教科書



5 初山滋 「小学新国語4年上」表紙(光村図書出版) 1960年代前半

初山滋やちひろの絵の教科書を使ったという方も多いのでないでしょうか。懐かしく、今もセンスが光る教科書の装丁や装画をご覧ください。



6 いわさきちひろ 「白いぼうし」 「小学国語5年上」(光村図書出版)より 1968年

アンデルセン童話



7 初山滋 海のなかの人魚姫 『にんぎょひめ』(フレーベル館)より 1967年

初山滋とちひろが共に多くの絵を描いたのがアンデルセンの童話です。なかでも『にんぎょひめ』は同じ年に絵本を出版しています。



8 いわさきちひろ 王子を想う人魚姫 『にんぎょひめ』(偕成社)より 1967年

初山滋 (1897～1973)

東京・浅草に生まれる。小学校卒業後、模様画工房に奉公に入り、後に日本画家の井川洗屋に学ぶ。1919年に童話雑誌「おとぎの世界」の表紙を描いて注目を集め、以後絵雑誌「コドモノクニ」などの絵で、童画家として広く知られるようになる。1927年、武井武雄、岡本帰一らと日本童画家協会を結成。第二次世界大戦中、子どもの本の仕事が激減するが、この時期に木版画の制作に集中した。1946年日本童画会結成。戦後も絵本や教科書の表紙などを数多く手がけた。



いわさきちひろ (1918～1974)

福井県武生市(現・越前市)に生まれ、東京で育つ。東京府立第六高等女学校卒。藤原行成流の書を学び、絵は岡田三郎助、中谷泰、丸木俊に師事。1949年、紙芝居『お母さんの話』を出版、翌年文部大臣賞受賞。1956年小学館児童文化賞、1961年産経児童出版文化賞、1973年『こどりのくるひ』でポローニャ国際児童図書展グラフィック賞等を受賞。子どもを生涯のテーマとして描いた。



同時展示

初山滋の木版画

童画とはまた異なる初山滋の世界をみることのできる木版画。自画自刻自摺の大小さまざまな木版画や私家本の版画絵本、絵本『もず』の原画なども展示します。

※前期(2013年10月30日～12月23日)、後期(2013年12月25日～2014年1月31日)で一部作品の入れ替えを行います。



9 初山滋 こども 1948年



10 初山滋 梅 1960年



11 初山滋 「きのこ」 『もず』(至光社)より 1965年



12 初山滋 雪 1960年代

「ちひろと初山滋」展 関連イベント

●ドレスコード特典

赤い帽子または赤い手袋着用の方に、招待券プレゼント

もっとも人気の高いちひろの絵である「赤い毛糸帽の女の子」出品にちなみ、会期中、赤い帽子または赤い手袋着用でご来館のお客様に、次回ご利用いただける招待券(東京・安曇野共通)をプレゼントします。(お一人様1回限り)



いわさきちひろ 赤い毛糸帽の女の子 『ゆきのひのたんじょうび』(至光社)より 1972年

●スライドトーク

「初山滋といわさきちひろ ~感性がたぐふたりの画家~」

多彩な作品を生み出した浅草育ちの粋人・初山滋の素顔や人生、いわさきちひろとの接点などを紹介します。

11/9 (土) 14:00~15:00

講師: 竹迫祐子 (安曇野ちひろ美術館副館長)

定員: 50名 参加費: 無料

*要申し込み 10/9 (水) 受付開始

●初山滋の貴重本を見る会

ケース展示では見られない貴重な希少本や版画本のなかまで、学芸員がめぐって、解説しながらお見せします。

11/23 (土) 17:15~18:15

定員: 20名

参加費: 500円

*要申し込み 10/23 (水) 受付開始

●わらべうたあそび

声を出して歌ったり、体を動かしたりしながら、親子で楽しく参加できます。

11/30 (土) 11:00~11:40

講師: 服部雅子

(西東京市もぐらの会代表、はとさん文庫主宰)

対象: 0~2歳までの乳幼児と保護者

定員: 15組30名

参加費: 無料

*要申し込み 10/30 (水) 受付開始

●無料感謝デー

いわさきちひろの誕生日(1918年12月15日・生誕95年)を記念し、お客様への感謝の気持ちを込めた、どなたでも無料でご入館になれる感謝デー。さまざまなお楽しみプレゼントや、この日限定の特別企画も。

12/15 (日)



●Yaeトーク&ミニライブ

農業を営みながら歌手としても活動しているYae。食と農、子どもたちの未来や歌に込める想いを語り、歌います。子どもも一緒に楽しめるイベントです。

12/21 (土) 14:00~15:30

出演: Yae (歌手)

定員: 80名

参加費: 大人2500円 子ども1500円

*要申し込み 11/21 (木) 受付開始

●新春・ちひろの水彩技法ワークショップ 手づくりぼち袋

水彩絵の具のにじみを体験する人気のワークショップ。お正月にぼち袋をつくります。

2014年1/2 (木)・1/3 (金) 11:00~ (受付開始10:00~)

講師: ちひろ美術館職員

定員: 先着70名 *当日申し込み

対象: 5歳~大人

参加費: 200円



●アーサー・ビナード講演会

絵本づくりにも取り組む詩人のアーサー・ビナードが、東日本大震災の復興や自作の絵本について語ります。

2014年1/12 (日) 14:00~15:30

講師: アーサー・ビナード (詩人)

定員: 80名

参加費: 1000円

*要申し込み 12/12 (木) 受付開始

○次回展示予告

2014年3月1日(土)~5月18日(日)

●世界中の子どもみんなに平和とあわせを~ちひろの願い展(仮)

●<企画展>

クヴィエタ・パツォウスカー展



クヴィエタ・パツォウスカー 『Retrothorn』より 1999年

●松本猛ギャラリートーク

母・ちひろとの思い出や展示のみどころなどをお話します。

1/19 (日) 14:00 ~ *参加自由、無料

講師: 松本猛 (ちひろ美術館常任顧問・絵本学会会長)

●ギャラリートーク

当館学芸員が、作品の解説や展示のみどころをお話します。

毎月第1・3土曜日

14:00~ *参加自由

●えほんのじかん

展示や季節にあわせて絵本の読み聞かせなどを行います。

協力: NCBN (ねりま子どもと本ネットワーク)

毎月第2・4土曜日

11:00~ *参加自由

●展示会期...2013年10月30日(水)~2014年1月31日(金)

●開館時間...10:00~17:00(入館は開館の30分前まで)

●休館日...月曜日(祝休日は開館、翌平日休館。11/4・12/23・1/13は開館、11/5・12/24・1/14は休館。12/28~1/1は休館、1/2から開館。)

●入館料...大人800円/高校生以下無料

団体(有料入館者20名以上)、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は100円引/障害者手帳ご提示の方は半額、介添えの方は1名まで無料/視覚障害のある方は無料

●交通...◎西武新宿線上井草駅下車徒歩7分

◎JR中央線荻窪駅より西武バス石神井公園駅行き(荻14)上井草駅入口下車徒歩5分

◎西武池袋線石神井公園駅より西武バス荻窪駅行き(荻14)上井草駅入口下車徒歩5分

◎駐車場あり(乗用車3台・身障者用1台)



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

ちひろ美術館・東京

<http://www.chihiro.jp/>

お問い合わせは、広報担当: 原島まで